

【因果応報の法則⑩】

こんにちは。アークテックコム株式会社で、翻訳とマニュアル作成を行っています。豊原 信です。



Tel : 050-6864-6201
Fax : 050-6864-6202
E-mail : m.toyohara@arctecom.jp

足るを知る

今月は、「足るを知る」の考え方や恒例の「勝手応援メッセージ」をお送りします。

「足るを知る」とは

「足るを知る」をインターネットなどで調べると、古代中国の思想家・老子の言葉として出てきます。解説を掻い摘んでみると「満足することを知る」ということです。老子は約 2,500 年前の哲学者です。牧畜農耕が始まって約 7,500 年が経った頃の時代です。歴史観を持って俯瞰して見ると、恐らくエゴ丸出しで戦に明け暮れていたものと推測できます。そして、老子が「少しは謙虚な心を持って満足することを考えましょう」と説いたのだと思われます。

文化と文明の違い

「足るを知る」について、もう少し深く考えるために、文化と文明の違いを考えてみましょう。まず、文化の土台には必ず風土があります。その土地が持つ気候や地味、地形などの自然の中で培われた人間の気質や考え方です。牧畜農耕を行う際は、どうしても自然と調和して共生しないと生産できません。収穫の時には、自然や宇宙に感謝せざるを得ません。

感謝には歌や踊りが付き物です。感謝して宇宙の摂理と調和するために作り出されたのが文化と考えられます。人間が「真・善・美」を追求して芸術を作り出すのも宇宙と調和するためと考えられます。

一方、文明は人間が疫病や飢餓から逃れたい、もっとおいしいものを食べたい、便利に快適に暮らしたい、月にも行けるようになりたいという貪欲と煩悩を、エネルギーとして創造してきたものです。今では宇宙で生活する技術や生物の DNA を操作する技術まで創造しています。

精神文化の必要性

文化も文明も人間が人間のために創造したものです。歴史を振り返りますと、まず精神文化があって、次に物質文明が創造されていき、共に発展してきます。しかし、「足るを知る」思いよりも、人間の貪欲と煩悩のエネルギーが強くと、物質文明は次から次へと創造が進み、神の領域まで近づきつつあると思えます。人間が創造し過去に栄えた文明が、悉く滅亡したのと同じ過ちを犯さないためにも、人間の心の原理原則である精神文化の考えを持って、物質文明

の創造を行うことが、人間としてのあるべき姿のように思います。

真の豊かさ

「足るを知る」心が真の豊かさをもたらすという、老子のお話に戻しましょう。世のため人のため、地球のためという、精神文化の利他の心を持つには、貪欲と煩悩の利己の心を抑えなければいけません。そこで利己の心を抑えるには、「足るを知る」という考え方が必要になります。

人間の利己的な欲望は、放っておけば際限なく肥大化していきま。すでに手に入れた豊かさに満足せず、さらなる豊かさを求めようとします。しかし、いくら欲望を満たそうとしても、決して満足できるものではありません。際限のない欲望にとらわれていては、物質的にどれほど豊かになっても、心の豊かさを感じることは出来ないはず。物に満たされれば、さらに「もっともっと」と肥大化していくのが欲望というものです。

人間にとっての豊かさとは、「足るを知る」心があってはじめて感じられるものです。足るを知り、日々感謝をする心を持って生きることにより、人生は真に豊かで

幸せなものになると考えます。そして、我々の3世代先、4世代先の子孫が平和に幸福に生きていけるようにすることが必要です。

今月の応援メッセージです。

リーダーは、決めることが仕事です。いくら意見を聞いても構わない、でも自分で決める。データを駆使し、分析を重ねて、リーダーが決める。

有能な部下に分析をさせ戦略を練らせ、意見を出させた後に「動機善なりや、私心無かりしか」と自らに問うて決断する。この自問が必須。

ホンダがバイクでアメリカに進出する際、優秀なコンサル会社に分析させ時期尚早とアドバイスを受けたが、進出すると決め成功に至ったのは、本田宗一郎の心眼です。

リーダーは、決めることが仕事です。いくら意見を聞いても構わない、でも自分で決める。データを駆使し、分析を重ねたとしても、リーダーが決める。

それも成長したいならば、どんどん決断をしていく。

成功、失敗のどちらになっても、成長のためにはどんどん決断をすること。どんどん決断しただけ、実行が伴う。

実行した分だけ結果が出る。結果を得た分だけ、修正ができ、成長に繋がられる。

織田信長は、どの武将よりも戦をし、勝率は6割程度と言われているが、それでも天下を取った。

決断しないと、実行が伴わない。よって、リーダーが決断をしないことが、最大の失敗である。

ただ中小企業のリーダーの悲しいことは、決断しても実行する人がいなくて自分で実行しなくてはならないこと。

「撃て！」と指揮をして、自分が先頭になって銃を撃っているようなものです。

それは人がいないので仕方のないことです。

中小企業にとって当然の姿です。ただし、重要なのは決断すること。自分が実行しているのは実行する人がいないから…、いればその人にやってもらうだけのこと。

「実行する人が自分しかいないから、決断しない」と判断しないこと。

そうすると決断しない会社になってしまう。最悪……

リーダーは、決めることが仕事です。いくら意見を聞いても構わない、でも自分で決める。

会社の将来がどうなるかは、リーダーの決断に掛かっています。それは、リーダー以外誰もやらないのです。

決断さえあれば、やる人は、いつか出てきます。

決断することの重要性を見失わないようにしましょう。

がんばれ！

リーダーは決断の連続です。決断する時のポイントがいくつかあります。

ひとつ目は、「動機善なりや、私心無かりしか」と自問すること。

ふたつ目は、自分達の目的や目標に照らしてみ、方向が正しいかどうか確認すること。

これらは皆、因果応報の法則の因の確認になります。

【人生の成果／仕事の成果】 =
【考え方】 × 【熱意】 × 【能力】

【考え方】 は -100 ~ +100
【熱意】【能力】 は 0 ~ +100

豊原 信